

自分で考えて行動する

牧野 直子

長引くマスク生活

新型コロナウイルス感染者が再び増え始め、まだまだ終息が見通せない中で、マスク生活が普通になりました。外に出る時に無意識にマスクをつけることが習慣として根付いており、熱中症の配も出ています。必要に応じてマスクをしたり、外したりという判断が求められると思います。また、ワクチン接種についてもするかしないかの判断は自分で決めるしかありません。

世の中には今やSNS(ソーシャルネットワークサービス)も含めて情報が溢れています。その中から状況を自分で判断し、それをもとに自分はどうするのかを決めることが求められます。

地球上に最初にあらわれたのはウイルスでした。今、新たなウイルスの出現により、私たちの暮らしは脅かされています。そして地球環境を破壊してきた人間が試されているのだと思います。

戦争は最大の環境破壊

第二次世界大戦が終わって今年で77年。今年2月末にロシアのウクライナ侵攻が始まりました。戦火は中々おさまらずともありません。戦争を経験した80代、90代の世代の方々は過去を思い出し、つらい思いをされていることでしょう。

太平洋戦争は最後に原子爆弾投下により、日本は無条件降伏となったわけですが、広島や長崎で被爆し、今も苦しんでいる方が沢山おられます。また被爆二世、三世と言われる方々も多いはずです。

このロシアとウクライナの戦争が核戦争に突き進むことなく、どうすれば和平交渉に導くことができるのでしょうか？日本は戦後、核の傘の下で、自衛隊を持ち、最低限の戦力を保持してきたのですが、防衛費は年々拡大し、今さらに戦力を増強しようとしています。6月には第1回核兵器禁止条約締約国会議が行われました。本来なら唯一の被爆国である日本がその中心になって会議をリードすべきですが、残念ながら日本は批准どころかオブザーバー参加もしていません。

「憲法9条の歌」を通して

私は市議になった翌年の夏、広島市の平和記念式典に初めて参加しました。そして「憲法9条の歌」を作りました。「♪愛と知恵で新しい道を探ろうそれが日本の使命 それが日本の償い♪」毎年憲法記念日に歌ってきましたが、これは日本国憲法を高く評価されたアメリカのチャールズ・オーバビーさんという方の講演を聞いたときの言葉がヒントになっています。今、どうしたらこれまでのように武器ではなく、新しい道を見つけることができるのでしょうか？

ウクライナもロシアも多くの素晴らしい音楽を育んできました。歌や音楽は人の心を癒し、繋げる力があります。武器を楽器に換えて音楽を通して共感できる人の輪を広げることにはできないでしょうか？

世界に広がる新しい動き

今、若い人たちの中にあらたな動きが出てきています。たとえば「ヴィーガン」という完全菜食主義の人たちの存在です。菜食主義に徹し、動物性のウールや皮製品を身につけないことで、便利で豊かな消費生活よりも、多少不便でもいい、すべての命を尊び、持続可能な社会を目指す活動が世界に広がっています。

私たちがだれかに任せるのではなく、自分で考え、行動していく力を共に育てていき、次世代に命のバトンを渡していきたいものです。



ウクライナの楽器バンドウーラに平和への想いを乗せて